



2026年4月28日

各 位

会社名：株式会社 エステック  
代表者：代表取締役 社長執行役員 鈴木 弘英  
(コード番号:6161 東証スタンダード市場)  
問合せ先：執行役員 管理部 部長 前田 洋二  
(TEL 06-6993-8855)

## 中期経営計画の見直しおよび今後の開示方針に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、2024年4月26日に公表いたしました中期経営計画の最終年度における定量目標の修正および今後の経営計画の開示方針の見直しについて決議いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

### 記

#### 1. 最終年度数値目標の修正内容

##### (1) 定量目標

		2027年3月期 中期公表計画	2027年3月期 修正計画
売上高	百万円	9,000	8,602
営業利益	百万円	1,900	1,707
営業利益率	%	21	19.9
ROE	%	14	10.4

##### (2) 修正の理由

当社は、中期経営計画に基づき、既存事業の強化および新規領域への展開を進めてまいりました。

しかしながら、足元においては、EV市場における需要の減速に加え、原材料価格の高騰や人件費の上昇、さらに中東情勢の緊張を背景とした原油価格の上昇や輸送コストの増加など、事業環境の不確実性が一層高まっております。

加えて、品質改善およびアフターサービス関連費用の増加ならびに顧客対応強化に伴う費用の増加もあり、当初想定していた収益水準の達成が困難となる見込みとなりました。

これらの状況を踏まえ、最終年度の定量目標を上記のとおり見直すことといたしました。

##### (参考) 中期経営計画 推移

		2025年3月期 実績	2026年3月 実績	2027年3月期 修正計画
売上高	百万円	7,881	8,033	8,602
営業利益	百万円	1,637	1,574	1,707
営業利益率	%	20.8	19.6	19.9
ROE	%	12.0	10.7	10.4

## 2. 中期経営計画の位置づけの見直しについて

当社はこれまで、中期経営計画に基づき中長期の成長戦略および定量目標を掲げ、企業価値向上に取り組んでまいりました。

一方で、近年の事業環境は、いわゆる VUCA(変動性・不確実性・複雑性・曖昧性)の高まりにより、従来のように3か年の定量目標を前提とした計画策定および進捗管理の難易度が一層高まっております。

このような環境下においては、

- 外部環境の変化に応じた迅速な経営判断
- 機動的な資源配分
- 実態に即した業績開示

が、従来以上に重要であると認識しております。

また、計画達成自体が目的化することによる柔軟性の低下や、現場への過度な負担といった課題も踏まえ、当社として最適な経営管理および情報開示のあり方を検討してまいりました。

## 3. 今後の経営計画の開示方針

これらを踏まえ、当社は現行中期経営計画をもって、3か年の定量数値目標を伴う中期経営計画の公表を一区切りとし、今後は以下の方針へ移行いたします。

### (1) 中長期ビジョン・戦略の継続的な提示

当社の目指す方向性や競争優位の源泉、重点戦略については、中長期の視点で引き続き明確に開示してまいります。

### (2) 単年度業績見通しおよび重点施策の充実

決算短信および決算説明資料において、単年度の業績見通しとあわせて、当該年度における重点施策や進捗状況をより具体的に開示いたします。

### (3) 状況変化に応じた柔軟なアップデート

外部環境や事業状況の変化に応じて、戦略や重点施策の見直しを機動的に行い、その内容を適時適切に開示してまいります。

以上